

逆境跳ねのけ「学び」の深化を!

新春の
ごあいさつ

語で「ひどい年」あるいは「恐怖の年」を意味するのだそうです。偶々その年は英国王室に禍事が相次ぎ、これを振り返っての言葉だったようです。その後もいろいろな人が、いろ

迎えることが出来ました。皆さまの忍耐と自制にあらためて感謝申し上げます。とは言い全ての行動に規制がかかっているような一年でした。皆さんが感じられたこの間のもどかしさ、所在なさ、葛藤は如何ばかりだったでしょうか。コロナさえなければ、この規制さえなければもつといろいろなことがやれた、これもやりたかった、あれもやりたかった、そんな思いが渦巻いた一年だったのかも知れません。そして規制から解放され、自由に動き回れるようになったらあれもやりたい、これもやりたいという欲求が膨らむばかりの

は「annus mirabilis(アナス・ミラビリス)」、「素晴らしい年」、「驚くべき年」という対になっている言い回しがあるのだそうです。本年が皆さまにとりましてこの annus mirabilis となりますように願ってやみません。

学生は皆さん、ご父母ならびに教職員の方の皆さま明けておめでとうございます。清々しい気持ちで新たな年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年はいよいよ「ひどい年」から「素晴らしい年」へ

踏み出そう 新たな攻めの一歩

——「ひどい年」から「素晴らしい年」へ——

境を肯定しない人は上昇気流に乗れない、ともいいます。外的要因に

学生の皆さん、ご父母ならびに教職員の皆さま明けておめでとうございます。清々しい気持ちで新たな年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

大きな波乱もなくこうして新しい年を迎えることが出来ました。皆さまの忍耐と自制にあらためて感謝申し上げます。

禍を転じて福と為す、といえます。逆境を肯定しない人は上昇気流に乗れない、ともいいます。



新潟国際情報大学
学長 野崎 茂

昨今なのかも知れませんが、嘆いてばかりいても仕方ありません。規制、制限、束縛があっても、その中でもやれることはいくらでもあるはずです。現にコロナ禍の中で、新しい生活様式、行動様式はいろんな形で現れ始めています。AI、IoTを活用してのDX、働き方改革の進展、リモート会議などイノベーションが目立っております。そうした中でも学生の自分である「学び」を深化させることは今すぐ着手可能ですし、如何しようにもその領域を広げることが出来ます。



NUISホームページ
https://www.nuis.ac.jp
(スマートフォン対応)



Facebookページ
https://www.facebook.com/nuis.face



Instagram



Twitter
@nuis_nabbit



YouTube
公式
チャンネル

クラブ・団体紹介イベント

学友会執行部では、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でクラブ・サークル団体の紹介機会があまりにも少なかったことから、各クラブ団体の協力のもとで



軽音楽部ライブ

「クラブ団体紹介イベント」を行いました。



サークルの説明を受ける新入生

では「第2回クラブ団体紹介イベント」の企画を検討しています。イベントで見つかった反省点を見直し、活かしながら、新入生の課外活動への参加をさらに後押しできるように企画にしたいと思えます。

また、軽音楽部が活動再開を記念して、学生会館1Fラウンジで10月29日、30日の2日間、ライブを行いました。

19団体 工夫凝らし新入生を歓迎 活動再開記念ライブも盛況

今回のイベントはコロナウイルス感染症の対策を万全にした上で、19団体によるブース形式の部活動紹介となりましたが、多くの新入生に参加していただきました。団体側の皆さんも新入生を迎え入れるため、ブースによって様々な工夫を凝らしながら、新入部員の獲得に力を入れ、実際にブースを訪れた新入生の中には、その場で入部を決めた学生もいました。その場で入部を決めなくても、どこかの会場ブースも新入生と上級生の間ではサークルに関しての話題で盛り上がり

をみせており、今回のイベント開催は、団体、新入生の双方にとって有意義なものになったことと思えます。今回は残念ながら都合がつかずに参加できなかったサークル・団体も多くありましたが、学友会

(学友会会長 情報システム学科2年 島垣光)

国際理解講演会

本学主催の公開講座「国際理解講演会」が10月25日に新潟中央キャンパスで開かれ、JICA職員らの講演と本学学生による留学報告が行われました。

コロナ禍でできる国際協力は？

本学学生も派遣留学を報告

第1部は独立行政法人国際協力機構(JICA)

が現状を具体的に報告しました。第2部は「新潟国際情報大学による留学報告会」と題し、本学で取り組んでいる派遣留学・夏期セミナー・交換留学に参加した学

生による成果発表が行われました。また現在韓国留学中の本学4年生の内一葉さんとオンラインでつなぎ、留学生活の現状について韓国から発表がありました。講演会には高校生も含めて63人の聴衆が参加し、「コロナ禍の今、

私たち高校生が彼らのためにできることはありますか」、「語学を学ぶ以外に何を学びましたか」など、多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。コロナ禍により日常生活は大きく変わり、現状では海外へ行くこ



講演するJICA職員 宮氏

が現状を具体的に報告しました。第2部は「新潟国際情報大学による留学報告会」と題し、本学で取り組んでいる派遣留学・夏期セミナー・交換留学に参加した学

生による成果発表が行われました。また現在韓国留学中の本学4年生の内一葉さんとオンラインでつなぎ、留学生活の現状について韓国から発表がありました。講演会には高校生も含めて63人の聴衆が参加し、「コロナ禍の今、

私たち高校生が彼らのためにできることはありますか」、「語学を学ぶ以外に何を学びましたか」など、多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。コロナ禍により日常生活は大きく変わり、現状では海外へ行くこ

とが困難な状況です。このような状況下で「国際協力とは何か」、「海外へ留学することの重要性」について、あらためて考える機会になりました。

- 会 (新潟大学・オンライン)
- 藤本 直生(国際文化学科・准教授)
 - ・(2020年11月11日・12日) "Team-Teaching and Communication in a Global Context" 長野県外国語指導助手 (ALT) 指導力向上研修会 (長野県教育委員会・オンライン)
- 吉澤 文寿(国際文化学科・教授)
 - ・(2020年10月26日) パネリストとして参加 李元徳 第4回韓日交流フォーラム (新潟日報メディアシップ)
- 3) 競争的資金獲得研究
- 内田 亨(経営学科・教授)
 - ・(2020年4月より新規～2023年3月) 日本学術振興会基盤研究C一般「Subjective well-being management in organizations :How to nurture, share and leverage positive emotions in the workplace (組織における主観的な幸福のマネジメント：職場で前向きな感情を育み、共有し、活用する方法)」研究分担者
- 4) 委員・社会的活動・記事・その他
- 内田 亨(経営学科・教授)
 - ・(2020年7月15日) 共同執筆 Philippe Orsini, Remy Magnier-Watanabe, Caroline F. Benton「企業カルチャーがコロナ禍を救う：今こそ「solidarité (ソリダリテ)：相互支援」を」季刊誌

- 「新潟県生産性本部会報」No.1 創刊号
- 小林 伊織(国際文化学科・講師)
 - ・(2020年11月28日～12月19日) 新潟国際情報大学社会連携センターオープンカレッジ「もっと知りたい、英語で台湾 Understanding Taiwan in English」
- 佐藤 泰子(国際文化学科・講師)
 - ・(2020年10月2日～11月6日) 新潟県シニアカレッジ「まちかどふれ愛英会話」(アトリウム長岡)
- 藤瀬 武彦(経営学科・教授)
 - ・(2020年9月11日～13日) 天皇賜盃第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 大会役員(委員)(デンカビッグスワンスタジアム)
- 堀川 祐里(国際文化学科・講師)
 - ・(2020年10月17日) 第49回赤松賞 受賞
 - ・(2020年11月30日) 横越地区公民館事業 女性セミナー「私の人生と向き合う もっと自由に、心地よく…」オリエンテーション「私の中のこだわりや戸惑いはどこから来るの？」
- 山下 功(経営学科・准教授)
 - ・(2020年10月9日) 無料Wi-Fiのメリットとサービス提供者の収益モデル (株式会社キュービック 格安スマホ学園 2020年10月9日公開) https://kakuyasu-sumahogakuen.com/interview_nuis/
 - ・(2020年7月) 新潟市次期税系システム再構築業務
 - ・(2020年10月) 新潟市総務事務システム構築業務

堀川ゼミの活動

堀川ゼミ3年生は、前期から夏休みにかけて、新潟県内の企業などを対象にインタビュー調査を行いました。インターネットや本で



コクヨ北陸新潟販売への調査結果発表会

は知ることに出来ないリアルな社会人の声を知り、自分の将来像をイメージすることが狙いです。キャリア支援課のご協力で建築・インテリア、マスコミ、労働に関わる行政機関の3グループに分かれ、遠隔授業の期間に、オンラインツ

タビュールを行いました。なぜこの現状を調査するためです。今回の活動を通して、女性だけではなく男性の育児休暇も明確な制度にする必要があると聞き、会社単位だけではなく国としての変革が求められていることを知りました。それとともに、インタビューの

ポイントメントを私たちが生自身の力で一から取るといった経験を通して、社会人としての基礎力も身につけることができました。

労働環境探る企業調査を実施

創意と工夫で「働き方改革」求められる女性活躍の場

ールを駆使してグループワークを成功させました。10月3・7日にはインタビュー先（コクヨ北陸新潟販売、日本ハウスホールディングス新潟支店、テレビ新潟放送網、新潟日報社、新潟新卒応援ハローワーク、新潟労働基準監督署）の担当者の方をお招きし、調査結果

はじめとした書籍で明らかにされていますが、戦時期の活動については空白になっていました。私は、生計を立てるために働かざるを得ない女性たちの労働と、妊娠、出産、育児の両立の困難に

（国際文化学科 3年 筒井 洗希）

このたび、赤松常子顕彰会より第49回赤松賞の表彰者に選ばれました。赤松賞は、故赤松常子参議院議員の遺徳と功績を記念し制定され、女性の地位向上や労働運動等に貢献した女性の表彰を行うことを目的としています。

堀川祐里講師に赤松賞

戦時期の赤松常子の活動に関する歴史研究で

私の博士論文のテーマは、戦時期の女性労働者の労働環境に関する歴史分析であり、この中で、戦時期の赤松常子の活動について明らかにしました。赤松常子の諸活動については、赤松常子顕彰会（1966）『道絶えず赤松常子、その人とあしあと』を

ついで明らかにしました。そのうち女性局長である多田とよ子さんをはじめ、戦後の女性労働運動を牽引した5名の女性たちから推薦を頂き、赤松常子顕彰会3団体のうち民社協会の推薦によ



筆者（後列中央）多田とよ子氏（前列中央）

り、研究者としては初めて赤松賞を受賞しました。

教員の活動（本人申告による）

1) 研究論文・図書

- 内田 亨(経営学科・教授)
 - ・(2020年) Remy Magnier-Watanabe "Organizational virtuousness, subjective well-being, and job performance: Comparing employees in France and Japan", Asia-Pacific Journal of Business Administration, vol.12 Issue:2 (115-138)
- 小林 伊織(国際文化学科・講師)
 - ・(2020年9月) Bolton, Botha, Kirkpatrick "English in Taiwan", The Handbook of Asian Englishes
- 堀川 祐里(国際文化学科・講師)
 - ・(2020年11月) 書評『続 ジェンダー労働論』(川東英子著)『社会政策』12巻2号 (136~140頁)
- 吉澤 文寿(国際文化学科・教授)
 - ・(2020年11月) 『日韓外交正常化問題資料 第四期 1963-1965年 韓国語資料』現代史料出版 全5巻 (通巻第11~16巻)

2) 学会・研究会・講演等

- 今井 裕紀(経営学科・講師)
 - ・(2020年11月11日~13日) 渡辺直登 "Does Western-born Youth Mentoring Program Function in Different Culture?: Exploring its Adaptability to Japan", 8th International Conference of Community Psychology (Melbourne・Online)

内田 亨(経営学科・教授)

- ・(2020年7月4日) 寺本義也「グループインバケーションの探索的研究：ブリー養殖事業の事例を中心に」日本情報経営学会 2020年度第80回全国大会 (拓殖大学・オンライン)
- ・(2020年10月24日) Remy Magnier-Watanabe "Antecedents of Subjective Well-Being at Work for Japanese Regular Employees" 国際戦略経営研究学会 2020年度第13回年次大会 (青山学院大学・オンライン)

小林 伊織(国際文化学科・講師)

- ・(2020年11月28日) 「民主の祭典：投票でミサイルに勝った台湾の市民」異文化塾「文化としての選挙：その多様性と民主主義」(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)

- ・(2020年9月12日・13日) "Validation of the EIKEN Tests in Japan's University's English Foundation Course - A Case Study on Teaching EFL Students" Japan Society for Educational Technology - The 2020 Annual Autumn Conference of JSET- (Online)

佐藤 若菜(国際文化学科・准教授)

- ・(2020年10月31日) 「中国貴州省の『民族』間関係：ミャオ族のサブ・グループと漢族に着目して」アジア民族文化学会 第39回大会 (共立女子大学・オンライン)

藤瀬 武彦(経営学科・教授)

- ・(2020年10月24日) 「一般男女大学生におけるフリーウェイト運動の%1RMでの最高回復回数と酸素消費量 -ベンチプレスとパラレルスクワットにおいて-」新潟県体育学会 令和2年度大

動き始めた RWP 実証事業

私たちSDGs推進団体 Rainbow World Project (RWP) は、新潟にしかん地域循環共生圏協議会の一員として、日産自動車と温泉×大学×電気自動車カーシェアを活用し、土日月・祝日は岩室温泉を訪れた観光客に日産リーフを貸し出して観光の活性化につなげ、火曜から金曜までは学生が岩室の地域課題の研究を行うために使用して地域SDGsの実証事業を行っています。

SDGsとは、国連が定めた世界の持続可能な開発のための国際目標であり、貧困の削減やジェンダー平等の実現、地球環境の保全などを含む17個の目標から成り立っています。

10月24日に新潟市西蒲区岩室にある観光施設「いわむろや」で電気自動車のお披露目会が開かれ、私たちRWPは、電気自動車



最上段の左端筆者

(SDGs推進団体) RWP副サークル長 国際文化学科3年 櫻井陽奈



ジャコウネココロヒーを作る学生スタッフ

の電力を利用して淹れたジャコウネココロヒーという希少価値の高いコーヒーの販売を行いました。電気自動車の電力は、SDGsの普及啓発活動を行いました。電気自動車の電力は、このようなイベントだけでなく災害時にも役立ちます。

3人家族であれば4日間はリーフの電気で過ごすことができます。

今回、岩室地域の方々と交流をする機会を与えて頂き、岩室地域の魅力があまり知られていないという地域課題の発見にもつながることができました。また、SDGsや新潟の地域活動に携わっている人たちと、これからの岩室での電気自動車を利用した活動について協議することができました。これからの学内外問わずSDGsの認知度を高めるために、いろいろな活動に取り組んでいきたいと思えます。

にいがた未来フォーラム2020

「コロナ禍で生活はどう変わる？」

本学からパネリストが参加

パネリストとして参加したので、その感想を紹介します。

国際文化学科4年 宮下凌さん

「にいがた未来フォーラム2020」(新潟日報・新潟テレビ21主催)が2020年10月11日、新潟市中央区の新潟日報メディアシッパで開催されました。これまでパネリストは自治体の長や県内企業の社長らが中心でしたが、今年は新しい試みとして、これからの時代を担う県内3大学の学生6人を迎えて行われました。そのフォーラムに本学国際文化学科4年の宮下凌さんと南雲文音さんの二人が



マイクを手に発表する宮下さん

今回参加した未来フォーラムでは、新型コロナウイルスの影響で新潟に住む私たちの生活はどう変わっていくのか、東京一極集中から地方回帰の流れは続くのか、というテーマでの意見が交わされました。

田原総一朗さん(ジャーナリスト)の講演に加えて、パネリストの方々の意見、南雲さんはじめ一緒に参加した学生の声からは、自分にはない多くの視点を学ぶことができ、気付かされる部分も多くありました。

コロナウイルス感染症の流行で生活が変化している中、現在そしてこれからの未来について考えさせられるとてもいい機会になりました。

「にいがた未来フォーラム」に参加し、改めて新潟の良さや課題を知ることができました。また、学生が意見を発信することの大切さを学びました。

新潟には文化や歴史、温泉、食、自然など魅力がたくさんあります。そのような環境・コロナ禍の中で、ワーケーションやマイクロツーリズムの需要が高まってきています。地方の良さを活かして新潟は発展していくことができると感じました。

オンライン中心の生活の中で人との交流が減っていましたが、実際に会い、さまざまな立場の人の意見をお聞きし、相手への理解をより深めることができました。

コロナ禍での就職活動やサークル活動で得た知識や貴重な経験を活かし、新潟の地域活性化に貢献していきたいです。

英語スピーチコンテスト



最優秀賞に輝いた西方さんのスピーチ

本学主催の「第6回新潟県高校生英語スピーチコンテスト」が10月18日に新潟中央キャンパスで行われました。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多くのイベントが中止され、本県高校生

私ができるエコ——新潟から考える——

最優秀賞に西方円花さん

(燕中等教育学校5年)

「私ができるエコを考えると、花さん、優秀賞に laureate 関根学園高校1年村岡穂乃香さん、新潟青陵高校2年武田彩花さん、審査員特別賞に新潟高校1年浅野美幸さん、新潟青陵高校1年皆川陸さんが選ばれました。

審査は、テーマの適切さ、発音、視線、表情、ジェスチャー、質問の理解度と回答の的確さなどを総合的に評価して行われました。

製品の使用——を提言した燕中等教育学校5年の西方円花さん、優秀賞に laureate 関根学園高校1年村岡穂乃香さん、新潟青陵高校2年武田彩花さん、審査員特別賞に新潟高校1年浅野美幸さん、新潟青陵高校1年皆川陸さんが選ばれました。